



いなば こうじ  
**稲葉 晃司** 議員  
(蒼天)

**富士宮市立病院の現状について**  
～地域医療を守るために2019～

**問** 平成31年度の富士宮市立病院の診療体制はどのようになるのか、今後の病院経営の見通しをどのように想定しているのか。

**病院長** 31年度は、現在建設中の地域包括ケア病棟が10月にオープンし、既存建物内の3A病棟を整形外科病棟として再編する。診療体制については、外科、整形外科において、常勤医が1人ずつ増員となる。特に現在診療体制を縮小している整形外科において、浜松医科大学から増員が決定し、4人体制となる見込みとなった。また、懸案となっている泌尿器科の医師についても、現在週2日、非常勤医師を京都府立大学から派遣していただいているが、さらに常勤の医師を派遣していただくことができるよう、現在泌尿器科の教授の

ご意見を伺いながら、手術に必要な医療機器等の整備について、内容を精査し進めている。その他の診療科については、増減がないので研修医1人の増を合わせ、64人体制となる。病院経営の今後の見通しは、一部診療科の診療体制縮小などにより、25年から赤字決算となっている状況にある。しかし、整形外科医師の増員により、徐々に診療体制が整備されつつある。引き続き、医師確保対策を最優先課題とし、収益の確保、経費の削減対策など、病院経営に有効な施策を着実に実行して、経営改善につなげていきたいと思う。



▲富士宮市立病院



てしま こうじ  
**手島 皓二** 議員  
(富岳会)

**住みたくなる富士宮市を実現するための理念について**

**問** 富士宮市のまちづくりの基本的な考え方は、どうあるべきか、改めて伺う。

①「まちづくり」の基本理念として、そもそも「まち」をつくるとは、一体どのような理念なのか  
②「有徳のまち」とは、どのような「まち」をイメージするのか ③「活力と豊かさのあるまちづくり」の、あるべきすがたについて ④「環境・医療・福祉の充実したまちづくり」に、行政並びに市民として、どのような基本理念と基本意識をもつべきか ⑤「財政の安定したまちづくり」とは、どのような財政運営を考えるべきか ⑥「品格と教養のあるまちづくり」をどのように形成するのか。

**市長** 議長のご一般質問は異例のことではあり、市長選挙の公開討論のようでもあるが、私から誠意

をもって答弁する。「まちづくり」の基本理念は、市民の共有空間を、地域の風土等を生かし、幸せに結びつけていくための環境整備だと思う。「有徳のまち」及び「活力と豊かさのあるまちづくり」とは、「市民憲章」そのものにある。また、個人的には、孔子や孟子の道徳の教えにあると考える。環境・医療・福祉の基盤をなすのは、優しさと思いやりであり、市民自身の果たすべき役割は、身近な人を大切にすることが大切であるとする。品格と教養のあるまちづくりとは、「国家と教養」と「国家の品格」の著者である、藤原正彦氏のいう「正義感・勇気・忍耐・誠実」ではないかと考える。

**教育長** 富士山のもとで育ったことを心にもち、育つことで、富士宮市の歴史文化が、より素晴らしいものになっていくと思う。

**要望** 市長のモットーである「次に来る旅人のために泉を清く保つ」を活かすためにも、子孫に借金を残さない健全財政を厳守してほしい。理念は抽象的であるが、考え方を議論することも意義がある。